

環境経営レポート2024

報告期間：2024年7月1日～2025年6月30日

発行日：2025年10月1日

株式会社ミカサ



1.	会社概要と対象範囲（認証・登録範囲）	3
2.	環境経営方針	4
3.	組織図	5
4.	新工場のご紹介	6
5.	環境経営目標及び環境経営活動計画（2024.7～2025.6）	7
6.	主な取り組みの実績・評価	9
7-1.	環境活動とその結果 ガス・灯油使用量	11
7-2.	ガソリン・軽油使用量	12
7-3.	コピー用紙使用量・温室効果ガス推移	13
7-4.	電気・上下水道使用量	14
7-5.	産業廃棄物・減容チップ	15
8.	EA21経年変化のまとめグラフ	16
9.	環境上の緊急時対応訓練	17
10.	環境関連法規への違反、訴訟の有無	18
11.	活動の見直し	19
12.	環境経営目標及び環境経営活動計画（2025.7～2026.6）	20
13.	代表者による全体の評価と見直し	22

1. 会社概要と対象範囲（認証・登録範囲）

事業者名	株式会社ミカサ
代表者名	代表取締役社長 三澤 敏宏
所在地	本社 〒390-0836 長野県松本市高宮北4-2 工場 〒390-0831 長野県松本市井川城1-4-7
環境管理責任者	取締役専務 三澤 寛宗
担当者	同上
連絡先	TEL：0263-25-1500 FAX：0263-27-3705 E-mail： hiromune-misawa@mikasa-nagano.co.jp
社内EA21EMS 事務局	株式会社ミカサ 総務部内
連絡先	TEL：0263-25-1500 FAX：0263-27-3705 E-mail： hiromune-misawa@mikasa-nagano.co.jp H-page： http://www.mikasa-nagano.co.jp
事業の内容	緩衝材の加工・販売 包装資材の販売 工業用品の販売 清掃用品の販売
従業員数	29名（パートも含む）
床面積	2574㎡
EA21対象範囲 （認証・登録範囲）	株式会社ミカサ 全組織（本社・工場）・全活動



2. 環境経営方針

基本方針

株式会社ミカサは、工業用品、環境用品、梱包資材の販売及び緩衝材の開発・設計・製造を通じお客様のニーズに応え、社会に貢献する企業を目指します。地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、循環型社会実現のため、資源の有効活用と最適商材の提案に取り組むことで、高い品質と顧客満足の向上を図り、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

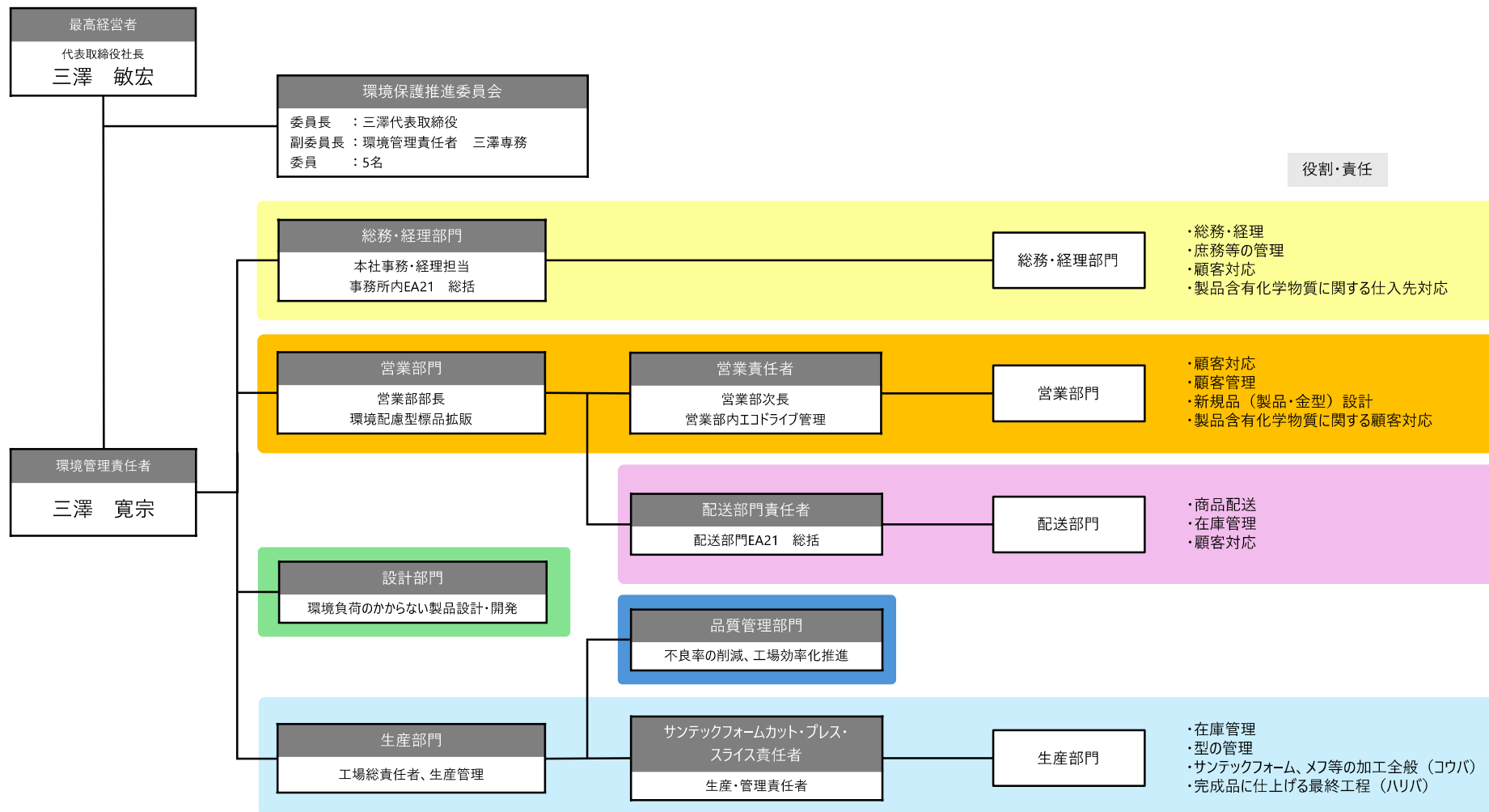
1. 環境負荷が少なく、お客様に満足いただける品質の高い商品を提供し、環境に配慮した企業活動を推進します。
 - 1) 電力消費の節減等、省資源・省エネルギーを図ります。
 - 2) 品質向上と原材料の効率的使用により、廃棄物の削減、リサイクルを推進します。
 - 3) カイゼン活動を推進しムリ・ムダ・ムラを無くし、生産効率の向上を目指します。
 - 4) グリーン購入、省エネ設備の導入を積極的に進めます。
2. 3R（リデュース・リサイクル・リユース）を考慮した製品の設計・提案、環境配慮製品の販売を積極的に行う事により、社会的な環境負荷の低減に努めます。
3. 環境関連の法令、規制、協定等を遵守します。
4. 環境経営の継続的改善を実施し、全社員の環境に対する理解と意識の向上を図ります。
5. 生物多様性保全に取り組みます。
6. 化学物質の管理を徹底します。
7. この環境経営方針はホームページ等で広く一般に公開します。

2018年7月1日

株式会社ミカサ

代表取締役社長 三澤 敏宏

3. 組織図

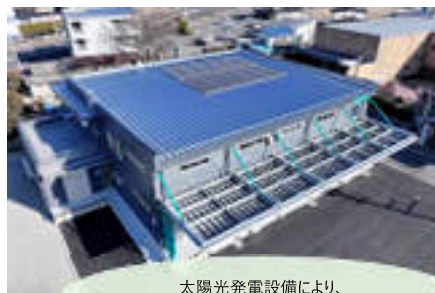


4. 新工場のご紹介

お蔭様で2025年1月23日に長年の念願の新工場が無事完成する事が出来ました。
新井川城工場は太陽光発電設備を設置しCO2の排出量の削減に取り組み、
また床面を90cmかさ上げる事により水害からの被害の軽減する対策をとらせて頂きました。

弊社は、「エコアクション21」と「事業継続計画（BCP）」を基本に、
環境負荷の低減、災害対策強化、地域・社会貢献を念頭に営業をしておりますので、
お客様、お客様にも安心してお仕事を任せて頂けるものと確信しております。

新工場が完成し、社員一同100年企業を目指して新たな気持ちでスタートを切りたいと思っております。
皆様方に少しでも恩返しをする事が出来る様、日々精進してまいります。
引き続き（株）ミカサを宜しくお願い申し上げます。



太陽光発電設備により、
再生可能エネルギーを活用しています



明るい照明で、夜間も安全かつ
心地よい環境を実現



玄関にもシンボルカラーの
“緑”がアクセントです



テラスの増設や休憩室の新設により
快適な環境が整いました



5. 環境経営目標及び環境経営活動計画（2024.7～2025.6）

作成責任者：三澤 作成日2024年7月1日

赤：環境目標（数値等） 青：今期開始の環境目標及び環境活動計画

目標	SDGs 17の目標	短期目標及び環境経営活動計画（2024年7月1日～2025年6月30日）		中期目標及び環境経営活動計画（2024年7月1日～2027年6月30日）
廃棄物排出量の削減及び3R	    	・産業廃棄物排出量を新基準値原単位47％削減（12,000kg） 原単位目標（17.8）	新基準年値（16,958kg） 新基準年値原単位（20.7）	・2030年：産業廃棄物排出量を新基準値原単位32％削減 原単位目標14.1
		・減容率は昨年同様の算定方法 減容率新基準値比21％UP 目標55％	新基準年値（14,183kg） 新基準年値原単位（45.5％）	・減容率基準原単位比30％UP 59％
		・流失不良品数は10件であった。今期は30％削減（7件）を目指す。		・流失不良品数を限りなく0件に近づける。
		・メフやその他加工品端材はフロンティア・スピリット E・P・S様に産業廃棄物として処する。 フロンティア・スピリット E・P・S様よりRPF（固形燃料）として処理される。		・引き続きお願いする。
		・減容チップの購入先が2社に増えた。リサイクルに廻せる商品を再度見極める。		
		・カタログ、雑誌、新聞、段ボール、シュレッター屑等はヤマカ資源回収様に引き取って頂く。		・紙類のリサイクル率を上げ可燃物量の削減を実現する。
		・請求書の電子化 現在開設223社 未開設136社 今期目標開設+77社（300社）		・得意先様全社請求書の電子化
		・コピー用紙 事務所：新基準原単位比46％削減 13,000枚 工場：2018～2021年平均原単位比47％削減 5,400枚	新基準年値（事務所 28,070枚） （工場 11,442枚）	・コピー用紙新基準原単位50％削減 事務所 原単位目標18.3 工場 原単位目標6.8
		・iPad利用により営業会議資料の電子化		
		・ダブルモニターの普及によるプリントアウト削減		・引き続きお願いする。
		・廃掃法に従った廃棄物処理を行う。		
二酸化炭素 排出量の削減	   	・二酸化炭素排出量を新基準原単位比54％削減（110,000Kg-CO2）目標原単位100	新基準年度原単位（219.4）	・2030年：二酸化炭素排出量を新基準原単位比45％削減 目標原単位98.7
		・エアコンの設定温度は、室温が夏27℃、冬23℃になるよう設定する。		・引き続きお願いする。
		・ストーブは基本温度は23℃に設定。（こまめな温度調整をお願いする）		・引き続きお願いする。
		・昼食時の消灯。		・引き続きお願いする。
		・使用していない場所の電気、エアコンを消す。		・引き続きお願いする。
		・使用していない機械の電源を切る。		・引き続きお願いする。
		・前年燃費に対し3％UPを目標とする。（各車両ごと）		・2009年平均燃費に対し5％UPを目標とする。次期車両の選定。（各車両ごと）
		・営業、セールスドライバーの重複するエリアの特定。テレマテックスの利用 テレマテックスを導入し、急ハンドル、急加速、急減速など「急」を無くすことにより 安全運転＆エコドライブの実現 営業エリアと配送エリアの重複を回避し燃料と時間のロスを減らす。		・アイドリングストップ、効率の良い運送経路の実現。（エコドライブの実施） ・エコカーへの乗り換え推進。
		・社内に拘らず、社外に対してもクールビズ、ウォームビズの推奨をお願いする。		・引き続きお願いする。
		・社外に対しCO2削減をお願いする為、弊社敷地内でのアイドリング禁止をお願いする。		・引き続きお願いする。
		・工場総労働時間2019～2021年度の原単位平均値→1.9 -30％目標を目指す。 目標原単位0.57	・工場総労働時間の削減 目標原単位0.55	
		・労働生産性 2019～2021年度平均比で3％UPを目指す。	・労働生産性 2019～2021年度平均比で10％UPを目指す。	
		・事務所倉庫の整理整頓（年末の大掃除に不要な商品廃棄によりスペース確保後、商品置き場の最適化）	・事務所倉庫の更なる整理	
		・松本市花いっぱい運動への寄付によりCO2削減を外部組織との協働実施。	・引き続き参画。	

水使用量の削減		・節水の継続的取組み。(269㎡) (増加傾向がある為、蛇口の閉め忘れ等十分注意する)	・節水の継続的取組み。(269㎡)
化学物質の管理		・化学物質を適正に管理する。(特にRoHS2)	・化学物質を適正に管理する。
法令等の遵守	 	・環境法令の調査、リスト作成および関係法令の周知。(環境基本法～) ・緊急時の訓練年一回(灯油・重油流出時の訓練も行う) ・NI Collabo 360による安否確認開始。最大震度 5以上で全社員に配信。 ・2020年3月16日 経済産業省より連携事業継続力強化計画認定された。自社のBCPの整備を強化。 ・フロン排出抑制法対策。(エアコンの簡易点検実施)	・法令の調査、リスト作成および関係法令の周知及び順法の徹底。 ・緊急時の訓練を年1回実施する。 ・事業継続計画(BCP)の更なる整備
環境教育の推進	 	・SDGs(持続可能な開発目標)への理解を深める。 ・自分にとってのSDGs(会社・プライベート)社員全員に今期始めに決めて頂き、期の終わりにフィードバックして公表する。 ・EA21カイズを年一回の報奨制にする。(優秀賞は、事務所・工場 各1名とする。) ・本社は月末最終週に月一回の全体清掃の時間を設ける。 ・工場は毎日決まった時間に清掃。 ・工場は月末最終日に現場ごとの会議や活動の場として、テーマの選定や実際に改善や普段できないことをみんなで行う。 ・セールスドライバー運行前点検の実施。 ・セールスドライバーへ名入り夏服を支給する。(ミカサ社員としての自覚をもってお客様への対応を心がける) ・本社、来客以外のスリッパ廃止。自前のスリッパ持参により整理整頓を促す。 ・周辺地域のゴミ拾いを実施し環境美化を図るとともに、社員の意識向上を目指す。(毎土曜出勤日15分間) ・chemSHERPA(製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム)の理解を深める。	・社員の意識を高め、無理・無駄をなくした環境経営を確立する。 ・5S3定の徹底。 ・5S3定の徹底。 ・5S3定の徹底。 ・継続的な取り組みにより生物多様性保全への貢献。 ・継続的な取り組みにより生物多様性保全への貢献。 ・5S3定の徹底。 ・継続的な取り組みにより生物多様性保全への貢献。 ・chemSHERPA(製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム)講習会参加
環境負荷の少ない商品の購入、開発		・3R(リデュース・リサイクル・リユース)を考慮した製品の設計・提案 ・環境負荷の少ない商品の積極的な販売かつ切替 ・商品開発をすすめ、「通い箱」などを提案・普及に努める。 ・弊社で生産・調達・販売しているウエスはSDGsの5項目に貢献している。オリジナルウエスの更なる拡販  ・グリーン購入、省エネ設備導入の推進。	・3R(リデュース・リサイクル・リユース)を考慮した製品の設計・提案 ・商品開発をすすめ、「通い箱」などを提案・普及に努める。 ・オリジナルウエスの販売目標 2019年度：7.0t → 2030年度：14t ・リサイクルマークを付ける設計を心がける。 ・自然素材の包装材の開発。

6. 主な取り組みの実績・評価

作成責任者：三澤 作成日2024年7月1日

赤：環境目標（数値等） 青：今期開始の環境目標及び環境活動計画

目標	SDGs 17の目標	短期目標及び環境経営活動計画（2024年7月1日～2025年6月30日）		評価
廃棄物排出量の削減及び3R		・産業廃棄物排出量を新基準値原単位47％削減（12,000kg） 原単位目標（17.8）	新基準年値（16,958kg） 新基準年値原単位（20.7）	売上目標11億円→10億円と未達だったので目標原単位を修正した。 ・目標原単位10.9→7.0 目標達成◎ 排出量の目標も12,000kgに対し今期は7,000kg（▲5,000kg）となり目標達成◎
		・減容率は昨年同様の算定方法 減容率新基準値比21％UP 目標55％0	新基準年値（14,183kg） 新基準年値原単位（45.5％）	・今期減容率64.82％と目標値（44.4％）に対し+20.42％となり目標達成◎
		・流失不良品数は11件であった。今期は30％削減（7件）を目指す。		・今期の流出不良品件数は11件であった。+4件と未達成
		・メフやその他加工品端材はフロンティア・スピリット E・P・S様に産業廃棄物として処する。 フロンティア・スピリット E・P・S様よりRPF（固形燃料）として処理される。		・旭化成アドバンス(株)へのSFチップ＆SF端材回収量は20,600kg 371,248円で購入 いただいた。(株)Y様にもSF以外の端材を購入いただきリサイクルに廻すことができた。 産廃金額 令和4年度1,301,960円 令和5年度627,330円 今期403,480円 購入いただいたSF端材代を差し引くと▲32,232円とほぼ産廃費がなくなるほどの効果 である。
		・減容チップの購入先が2社に増えた。リサイクルに廻せる商品を再度見極める。		
		・カタログ、雑誌、新聞、段ボール、シュレッター屑等はヤマカ資源回収様に引き取って頂く。		
		・請求書の電子化 現在開設223社 未開設136社 今期目標開設+77社（300社）		・請求書の電子化 現在 利用中→311件 未開設→37件 今期目標の300件達成（2024.10より切手代84円→110円と3割値上がりする）
		・コピー用紙 事務所：新基準原単位比46％削減 13,000枚 工場：2018～2021年平均原単位比47％削減 5,400枚	新基準年値（事務所 28,070枚） （工場 11,442枚）	・事務所 目標原単位 11.8→14.0 未達 ・工場 目標原単位 4.8→5 未達（事務所+1,022枚 工場▲456枚） 事務所は未達、工場は削減できたが未達 目標値の設定を低くし過ぎた感がある。
		・iPad利用により営業会議資料の電子化		
		・ダブルモニターの普及によるプリントアウト削減		・引き続きお願いする。
二酸化炭素 排出量の削減		・二酸化炭素排出量を新基準原単位比54％削減（110,000kg-CO2）目標原単位100	新基準年度原単位（219.4）	・二酸化炭素排出量 目標原単位 100→113 未達 排出量は（+2,946kg-CO2）112,950kg-CO2と超過したが過去最低量を記録。 重油の使用が無くなったことが大きな要因。
		・エアコンの設定温度は、室温が夏27℃、冬23℃になるよう設定する。		・電気は未達 目標原単位57.36→65.94 新工場の移行後大幅に使用量が増加している。 低圧電力→高圧電力への移行が原因と考えられるが運用方法と太陽光発電による 削減に期待。
		・ストーブは基本温度は23℃に設定。（こまめな温度調整をお願いする）		・灯油は達成 目標原単位 1.32→0.89（▲610ℓ） ・重油 2024.3より使用していない為、今期は0ℓ
		・昼食時の消灯。		
		・使用していない場所の電気、エアコンを消す。		・軽油 ：目標原単位 14.88→16.41 未達（+26ℓ） ・ガソリン：目標原単位 11.76→14.99 未達（▲1,997ℓ） ガソリンは抜本的な対策が必用 電気自動車導入等
		・使用していない機械の電源を切る。		
		・前年燃費に対し3％UPを目標とする。（各車両ごと）		
		・営業、セールスドライバーの重複するエリアの特定。テレマテックスの利用 テレマテックスを導入し、急ハンドル、急加速、急減速など「急」を無くすことにより 安全運転＆エコドライブの実現 営業エリアと配送エリアの重複を回避し燃料と時間のロスを減らす。		
		・社内に拘らず、社外に対してもクールビズ、ウォームビズの推奨をお願いする。		・工場総労働時間原単位 1.99と目標未達
		・社外に対しCO2削減をお願いする為、弊社敷地内でのアイドリング禁止をお願いする。		・労働生産性に関しては、目標原単位461→599と30％UP
		・工場総労働時間2019～2021年度の原単位平均値→1.9 -30％目標を目指す。 目標原単位0.57		
		・労働生産性 2019～2021年度平均比で3％UPを目指す。		・年末の大掃除に本社側では不要な商品破棄によるスペース確保行った。 まだまだメスを入れないといけない箇所がある。 キャスター付きの棚を2台導入し整理整頓が進んだ。
		・事務所倉庫の整理整頓（年末の大掃除に不要な商品廃棄によりスペース確保後、商品置き場の最適化）		
		・松本市花いっぱい運動への寄付によりCO2削減を外部組織との協働実施。		

水使用量の削減		・節水の継続的取り組み。(269㎡) (増加傾向がある為、蛇口の閉め忘れ等十分注意する)	・+85㎡となってしまった。 本社側での人為的な漏水事故が原因
化学物質の管理		・化学物質を適正に管理する。(特にRoHS2)	・化学物質管理規定に基づき適正に管理出来た。
法令等の遵守	 	・環境法令の調査、リスト作成および関係法令の周知。(環境基本法～) ・緊急時の訓練年一回(灯油・重油流出時の訓練も行う) ・NI Collabo 360による安否確認開始。最大震度 5以上で全社員に配信。 ・2020年3月16日 経済産業省より連携事業継続力強化計画認定された。自社のBCPの整備を強化。 ・フロン排出抑制法対策。(エアコンの簡易点検実施)	・法令の調査、リスト作成および関係法令の周知及び順法の徹底 ・緊急時の訓練を年1回実施した。 ・環境教育の推進 NI Collaboによる安否確認を開始。最大震度5以上 全社員に自動配信
環境教育の推進	 	・SDGs(持続可能な開発目標)への理解を深める。 ・自分にとってのSDGs(会社・プライベート)社員全員に今期始めに決めて頂き、期の終わりにフィードバックして公表する。 ・EA21カイゼンを年一回の報奨制にする。(優秀賞は、事務所・工場 各1名とする。) ・本社は月末最終週に月一回の全体清掃の時間を設ける。 ・工場は毎日決まった時間に清掃。 ・工場は月末最終日に現場ごとの会議や活動の場として、テーマの選定や実際に改善や普段できないことをみんなで行う。 ・セールスドライバー運行前点検の実施。 ・セールスドライバーへ名入り夏服を支給する。(ミカサ社員としての自覚をもってお客様への対応を心がける) ・本社、来客以外のスリッパ廃止。自前のスリッパ持参により整理整頓を促す。 ・周辺地域のゴミ拾いを実施し、環境美化を図るとともに、社員の意識向上を目指す。(毎土曜出勤日15分間) ・chemSHERPA(製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム)の理解を深める。	- Ni Collaboにより様々な情報を発信し社内共有を図る。 ・「自分にとってのSDGs」カードの携帯により意識改革を図った。 ・講習会情報をチェックし参加する。 ・月一回の全体清掃継続した。 ・継続できた。 ・周辺のゴミ拾い、社内草かきの実施(4回実行した)
環境負荷の少ない商品の購入、開発		・3R(リデュース・リサイクル・リユース)を考慮した製品の設計・提案 ・環境負荷の少ない商品の積極的な販売かつ切替 ・商品開発をすすめ、「通い箱」などを提案・普及に努める。 ・弊社で生産・調達・販売しているウエスはSDGsの5項目に貢献している。オリジナルウエスの更なる拡販  ・グリーン購入、省エネ設備導入の推進。	・今期も工場間の通い箱も何件か受注できた。今後も継続的に提案を行う。 ・ウエスの原料不足は解消し、安定して製造・供給ができています。



全体清掃・周辺のゴミ拾い・社内草刈りの様子

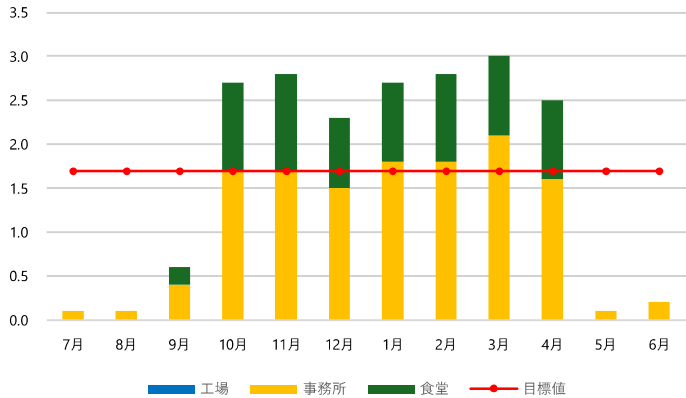
7-1. 環境活動とその結果（ガス・灯油使用量）

ガス使用量（㎡）



環境目標：新基準値原単位比67％削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
工場	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事務所	0.1	0.1	0.4	1.7	1.7	1.5	1.8	1.8	2.1	1.6	0.1	0.2	13.1	19.9
食堂	0.0	0.0	0.2	1.0	1.1	0.8	0.9	1.0	0.9	0.9	0.0	0.0	6.8	20.4
合計	0.1	0.1	0.6	2.7	2.8	2.3	2.7	2.8	3.0	2.5	0.1	0.2	19.9	0.020
目標値	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	20.4	0.019
原単位	0.000	0.000	0.001	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003	0.003	0.000	0.000	0.02	0.001
原単位目標	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.02	
評価	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	



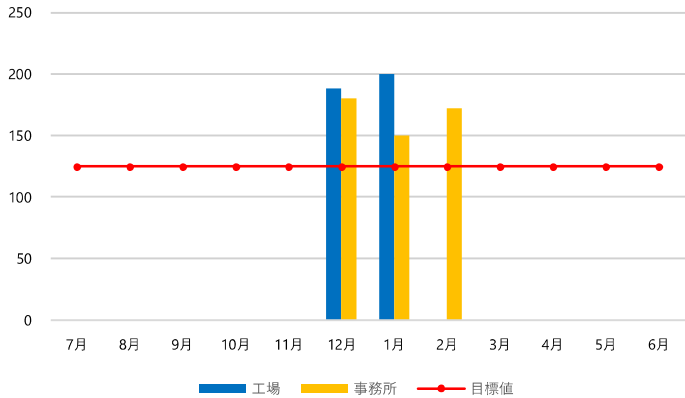
- ★使用状況の振り返り
ガス使用量は年間合計で目標値に近い水準となり、全体として一定の管理効果は見られました。特に夏季や春先は目標を下回るなど、良好な成果も確認できます。
- ★課題点
しかし、評価欄の半分以上が「×」となっており、通年で安定的に目標を達成できていない状態です。「夏場は目標達成できるが、冬期は達成不能」という状況は、省エネ活動が季節依存であり、本質的な改善が進んでいないことを示しています。
- ★今後の改善に向けて
単なる「節約意識」では不十分であり、暖房機器の使用方法や設備そのものの改善、運用ルールの徹底が不可欠です。特に冬期のガス使用量削減に向けて、抜本的な対策を導入しない限り、目標達成は困難と考えられます。

灯油使用量（L）



環境目標：新基準値原単位比64％削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	評価
事務所 灯油	0	0	0	0	0	180	150	172	0	0	0	0	502	
工場 灯油	0	0	0	0	0	188	200	0	0	0	0	0	388	
事務所+工場	0	0	0	0	0	368	350	172	0	0	0	0	890	○
目標値	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	1,500	
原単位	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.37	0.35	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.89	○
原単位 目標値	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	1.32	
評価	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	



- ★使用状況の振り返り
年間合計は 890 ℓ で、目標値 1,500 ℓ を大きく下回り、目標達成しました。特に 12月～2月に集中して使用されており、それ以外の月はほぼゼロ。季節要因が明確に表れています。評価欄でもほとんど「○」が並び、総合的に良好な結果となりました。
- ★良い点
年間使用量は目標より大幅に少なく、省エネ効果が確実に出てしていると評価できます。集中的に使用される冬期においても、必要最低限の範囲での使用に抑えられている点は高く評価できます。
- ★今後の改善に向けて
暖房設定温度の最適化や断熱対策の強化によって、冬期のピーク使用をさらに削減。使用がゼロとなる月もあるため、オフシーズンの管理は適切と判断でき、この体制を継続。今後は「冬期ピークをいかに削減できるか」が次年度の重要テーマです。

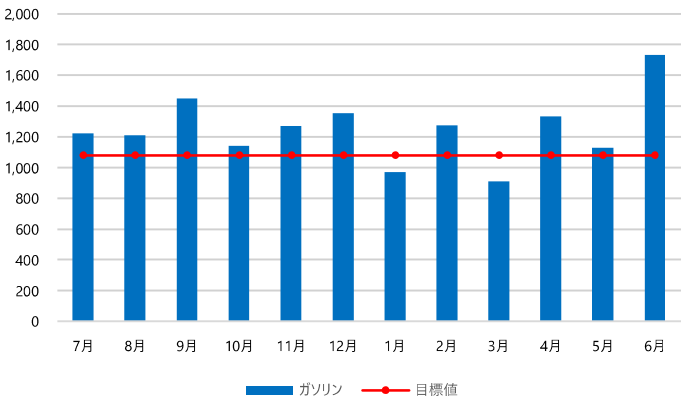
7-2. 環境活動とその結果（ガソリン・軽油使用量）

ガソリン使用量（L）



環境目標：新基準値原単位比52％削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
ガソリン	1,223	1,208	1,449	1,140	1,271	1,355	969	1,275	909	1,329	1,131	1,734	14,993
ガソリン目標値	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	12,996
ガソリン原単位	1.22	1.21	1.45	1.14	1.27	1.36	0.97	1.27	0.91	1.33	1.13	1.73	14.99
ガソリン原単位目標値	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	11.76
評価	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×



★使用状況の振り返り

年間合計は 14,993 ℓ で、目標値 12,996 ℓ を 約2,000 ℓ 超過し、未達成となりました。
月別に見ると、9月・6月の使用量が特に多く、1,400 ℓ を超えています。
評価欄でも「×」が多く、安定して目標を下回ることができていません。

★課題点

年間を通じて目標超過が常態化しており、削減努力が不十分と判断せざるを得ません。
特に6月は 1,734 ℓ と突出しており、管理の緩みや利用ルールの徹底不足が疑われます。
評価「×」が目立つことから、全体的にガソリン使用の抑制が定着していない状況です。

★今後の改善に向けて

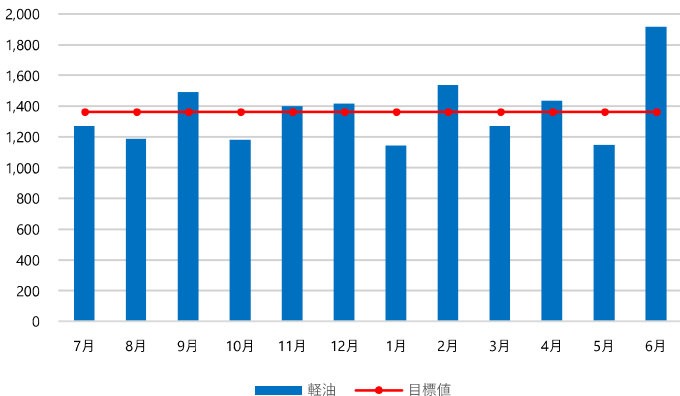
運転計画の見直し：移動をまとめる、不要な走行を削減する。
エコドライブの徹底：アイドリングストップや急発進防止の教育を継続。
ピーク時の要因分析：9月・6月の使用増加要因を特定し、再発防止策を講じる。

軽油使用量（L）



環境目標：新基準値原単位比32％削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
軽油	1,270	1,188	1,493	1,181	1,400	1,416	1,146	1,537	1,271	1,434	1,151	1,918	16,406
軽油目標値	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	16,380
軽油原単位	1.27	1.19	1.49	1.18	1.40	1.42	1.15	1.54	1.27	1.43	1.15	1.92	16.41
軽油原単位目標値	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	14.88
評価	×	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×



★使用状況の振り返り

年間合計は 16,406 ℓ で、目標値 16,380 ℓ を 26 ℓ 超過し、わずかに未達となりました。
月別では 9月（1,493 ℓ）、2月（1,537 ℓ）、6月（1,918 ℓ）が突出して多く、
これが未達の主因です。評価欄でも「×」が目立ち、安定的に目標達成できていないことが示されています。

★課題点

6月の1,918 ℓ は突出して高く、年間合計を押し上げました。
年間未達の差はわずか26 ℓ ですが、「あと少しで達成できたのに届かなかった」＝
改善余地があることを意味します。

★今後の改善に向けて

使用増加の要因分析：9月・2月・6月の使用状況を精査し、増加要因を特定して対策を打つ。
効率運転の徹底：走行計画の最適化やアイドリング削減など、日常管理をさらに強化。
小さな積み重ねで達成可能：今回の未達はごく僅差なので、継続的な取り組みで十分達成可能。

7-3. 環境活動とその結果（コピー用紙使用量・温室効果ガス推移）

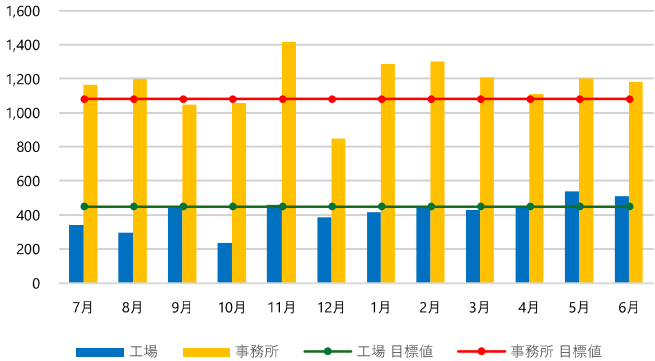
コピー使用量（枚）



環境目標：【事務所】新基準値原単位比68％削減 【工場】H30～R2平均比67％削減

●工場		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
工場		339	295	446	236	459	387	418	450	429	440	536	509	4,944	-456
工場 目標値		450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	5,400	
工場 原単位		0.339	0.295	0.446	0.236	0.459	0.387	0.418	0.450	0.429	0.440	0.536	0.509	5	0
工場 原単位目標値		0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	4.8	
評価		○	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	

●事務所		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
事務所		1,164	1,199	1,047	1,058	1,418	847	1,287	1,299	1,209	1,108	1,202	1,180	14,018	1,022
事務所 目標値		1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	1,083	12,996	
事務所 原単位		1.164	1.199	1.047	1.058	1.418	0.847	1.287	1.299	1.209	1.108	1.202	1.180	14.0	2
事務所 原単位目標値		0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	0.983	11.8	
評価		×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	



★使用状況の振り返り
工場は年間で 4,944枚 使用し、目標値（5,400枚）を 下回りました（▲456枚）
一方で事務所は 14,018枚 使用し、目標値（12,996枚）を 超過（+1,022枚）

★今後の改善に向けて
ペーパーレス化の徹底（資料の電子化・共有フォルダ活用）
印刷ルールの再確認（両面印刷・不要印刷削減）
事務所での重点的対策：工場では成果が出ているため、事務所の使用削減に特化したルール整備や啓蒙活動が必要です。

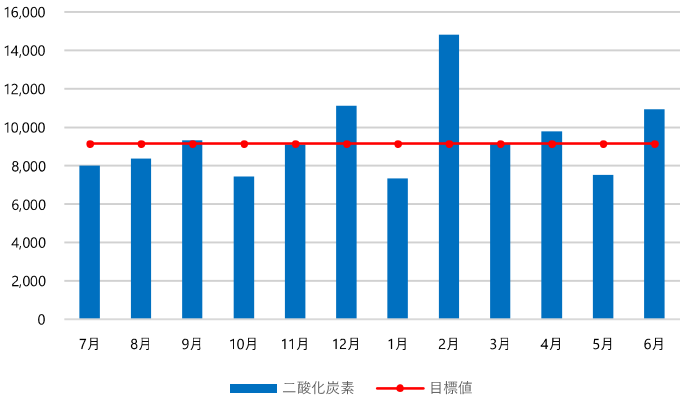
カラーコピー	@15/枚
カラープリント	@15/枚
ブラック 1枚～1,000枚	@1.8/枚
ブラック 1,001枚～	@1.5/枚

温室効果ガス推移（ kg-CO2 ）



環境目標：新基準値原単位比32％削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
二酸化炭素	8,027	8,375	9,324	7,435	9,119	11,106	7,352	14,806	9,198	9,760	7,526	10,922	112,950	2,946
目標値	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	9,167	110,004	
二酸化炭素原単位	8.0	8.4	9.3	7.4	9.1	11.1	7.4	14.8	9.2	9.8	7.5	10.9	113.0	13.4
目標原単位	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	99.6	
評価	○	×	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	



★使用状況の振り返り
年間排出量は 112,950kg-CO₂で、目標値 110,004kg-CO₂を 2,946kg-CO₂超過しました。
特に2月（14,806）で大幅な超過があり、工場移転直後から排出量が急増したと考えられます。

★良い点
年間原単位は 99.6で、目標値 100 にほぼ到達。全体的な省エネ努力は効果を発揮しています。

★今後の改善に向けて
・新工場の省エネ体制の整備
→設備稼働方法の見直し、無駄なエネルギー使用の削減。
・冬期対策の強化
→暖房効率化、断熱性向上、エネルギーピーク抑制の仕組み導入。

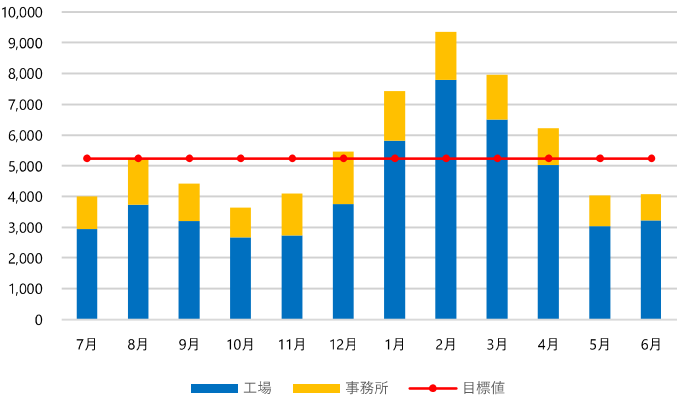
7-4. 環境活動とその結果（電気・上下水道使用量）

電気使用量（kWh）



環境目標：新基準値原単位比30%削減

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	評価
工場	2,938	3,739	3,196	2,681	2,731	3,760	5,826	7,801	6,495	5,016	3,025	3,220	50,428	
前年工場	2,352	4,052	3,841	3,017	2,424	4,723	5,508	6,924	6,525	5,002	2,869	2,176	49,413	1,015
事務所	1,062	1,513	1,215	957	1,369	1,703	1,604	1,539	1,477	1,204	1,017	850	15,510	-1,789
前年事務所	1,297	1,287	1,114	997	1,360	1,888	2,238	2,179	1,910	1,319	887	823	17,299	
工場＋事務所	4,000	5,252	4,411	3,638	4,100	5,463	7,430	9,340	7,972	6,220	4,042	4,070	65,938	×
目標値	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	63,000	2,938
原単位工場＋事務所	4.00	5.25	4.41	3.64	4.10	5.46	7.43	9.34	7.97	6.22	4.04	4.07	65.94	×
原単位目標値	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	57.36	8.58
評価	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○		



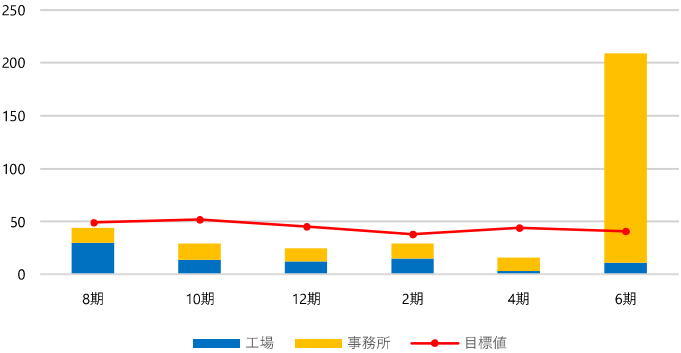
- ★使用状況の振り返り
年間合計は 65,938kWhで、目標値 63,000kWh を 約2,938kWh超過しました。
特に 1月下旬以降（新工場移行後）から3月にかけて使用量が急増しており、これが目標未達の大きな要因となっています。7月～12月前半は比較的安定しており、旧工場時点では目標に近い推移でした。
- ★良い点
移行前（旧工場運用時）は大きな超過もなく、省エネの効果が出ていたと考えられます。移行後の使用増は「新工場特有の要因」と切り分けて評価できるため、来年度の改善余地を明確にできるのは良い点です。
- ★今後の改善に向けて
・新工場の設備運用状況を分析し、省エネ型の運用方法を早急に確立する。
・冬期のピーク対策：暖房や機械稼働の効率化を徹底。

上下水道使用量（m³）



環境目標：節水の継続的な取り組み

	8期	10期	12期	2期	4期	6期	合計
工場	30	14	12	15	3	11	85
事務所	14	15	13	14	13	198	267
合計	44	29	25	29	16	209	352
目標値	49	52	45	38	44	41	269
評価	○	○	○	○	○	×	×



- ★使用状況の振り返り
年間合計は 352m³で、目標値（269m³）を 83m³超過しました。特に 6期（5月・6月）の198m³は、本社外の蛇口の閉め忘れによる異常使用が原因であり、管理上のミスが大きな影響を与えました。一方、8期～4期は目標値に近い水準で推移し、比較的安定した使用状況でした。
- ★課題点
蛇口の閉め忘れという単純な管理ミスが、年間全体の結果を大きく悪化させました。特に事務所での使用量が突出しているため、現場管理の徹底が最優先課題です。
- ★今後の改善に向けて
・蛇口や水回りの点検ルール化（退社時・休日前に必ず確認）
・鍵付きキャップや自動止水弁の導入など、ヒューマンエラーを防ぐ仕組みを検討。
- 引き続き事務所を中心とした節水意識の徹底と、異常使用の早期検知体制を構築する必要があります。

7-5. 環境活動とその結果（産業廃棄物・減容チップ）

産業廃棄物（kg）

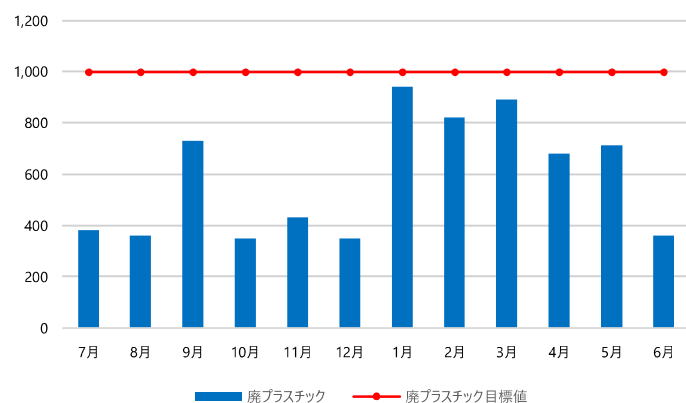


環境目標：産業廃棄物排出量を新基準値原単位47%削減（12,000kg）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
廃プラスチック	380	360	730	350	430	350	940	820	890	680	710	360	7,000
廃プラスチック目標値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	12,000
廃プラスチック原単位	0.38	0.36	0.73	0.35	0.43	0.35	0.94	0.82	0.89	0.68	0.71	0.36	7.00
原単位目標値	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	0.91	10.92
評価	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○

-5,000

-3.92



★使用状況の振り返り

年間排出量は 7,000kg で、目標値 12,000kg を 5,000kg 下回り、大幅達成しました。
原単位は 7.00 で、目標値 10.92 を大きく下回り、非常に良好な結果です。
評価欄もほとんど「○」で安定しており、全体として高く評価できます。

★良い点

年間を通して安定的に排出量が目標以下で推移し、排出抑制の取り組みが確実に成果を出しているといえます。
特に7月、12月、6月などは使用量が大幅に抑えられており、継続的な改善が定着していることが伺えます。

★今後の改善に向けて

- ・リサイクル・再利用の徹底
- 単なる削減だけでなく、資源循環につながる仕組みを強化。

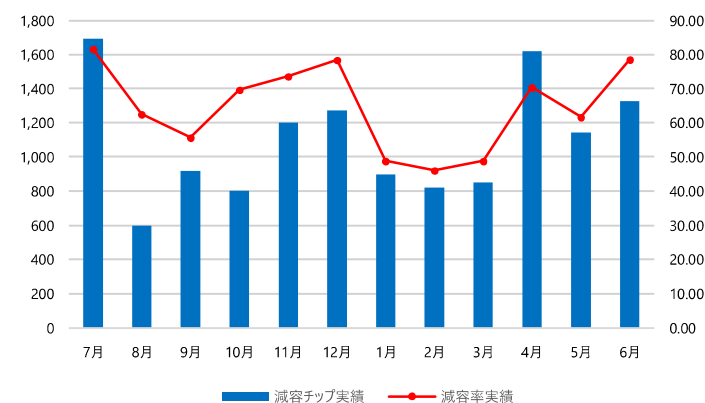
引き続き、安定的に目標を下回る体制を維持することが重要です。

減容チップ（kg）



環境目標：減容率新基準値比21%UP（55%）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
減容チップ実績	1,692	600	918	804	1,200	1,272	900	820	852	1,620	1,140	1,326	13,144
産廃実績	380	360	730	350	430	350	940	890	680	710	360		7,134
減容率実績	81.66	62.50	55.70	69.67	73.62	78.42	48.91	46.22	48.91	70.43	61.62	78.65	64.82
減容率目標値(%)	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00
評価	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○



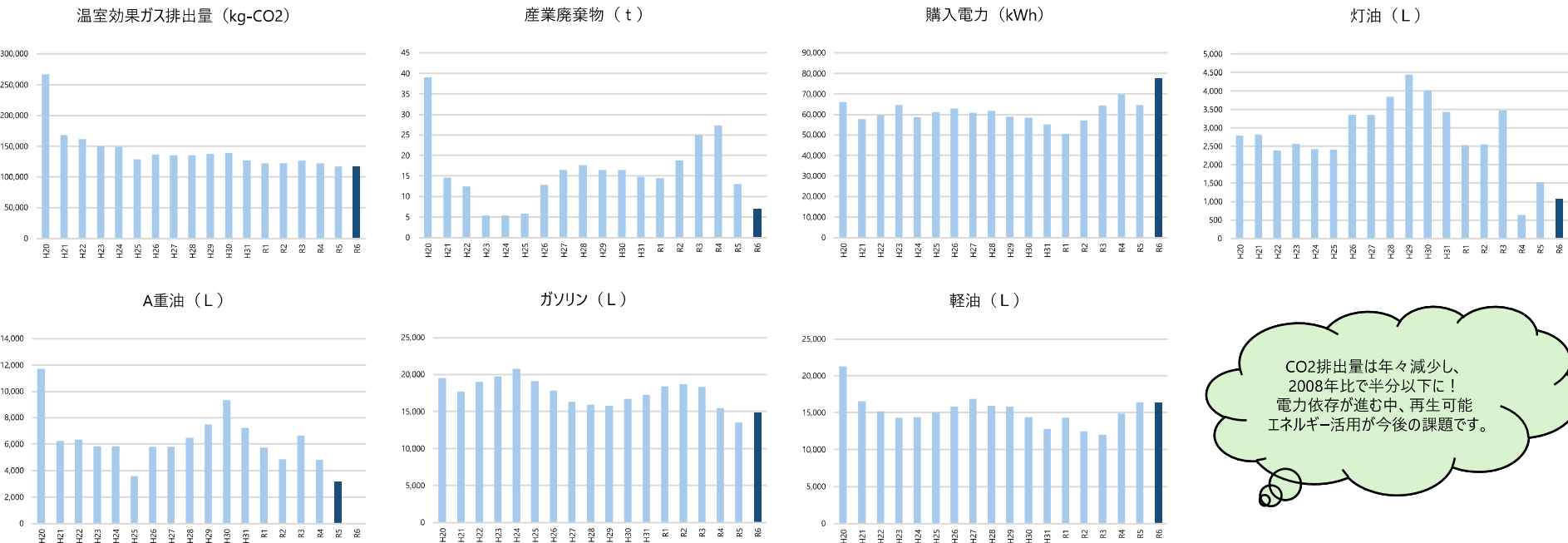
★使用状況の振り返り

年間合計での減容チップ比率は 64.82% となり、目標値の 55% を大きく上回る成果を達成しました。
特に7月・8月・12月・4月・5月・6月は目標を安定的にクリアし、評価でも「○」が多く並んでいます。
一方で、1月～3月は比率が50%を下回り、目標未達となっています。

★今後の改善に向けて

- ・冬季の安定化対策
- 1～3月にかけての処理フローや排出物の見直しを重点的に行う。
- ・安定運用の徹底
- 高水準を達成した月の取り組みを標準化し、低調な月とのギャップを埋める。
- ・継続的モニタリング
- 月ごとに原因を分析し、改善策をすぐに反映させる仕組みが必要。

8. EA21経年変化のまとめグラフ（2008年～2024年）



環境への負荷		単位	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	R5	R6
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	266,732	168,032	161,792	149,976	149,447	128,482	136,777	134,874	135,260	137,337	139,343	127,522	122,440	122,510	126,508	122,422	116,990	116,958
産業廃棄物	廃プラスチック	t	39	14.64	12.44	5.36	5.34	5.81	12.81	16.5	17.7	16.5	16.5	14.8	14.5	18.8	25	27.3	13.01	7.1
エネルギー使用量	購入電力	kWh	65,984	57,666	59,754	64,697	58,737	61,178	62,949	60,829	61,873	59,036	58,535	55,151	50,427	57,027	64,297	69,809	64,553	77,701
	灯油	L	2,790	2,817	2,389	2,564	2,429	2,411	3,361	3,361	3,838	4,438	4,021	3,434	2,532	2,560	3,474	640	1,529	1,090
	A重油	L	11,700	6,220	6,350	5,820	5,820	3,590	5,800	5,790	6,490	7,470	9,330	7,230	5,750	4,880	6,650	4,850	3,200	0
	ガソリン	L	19,524	17,711	19,001	19,728	20,785	19,152	17,850	16,325	15,942	15,807	16,702	17,241	18,448	18,678	18,374	15,453	13,519	14,994
	軽油	L	21,235	16,543	15,177	14,306	14,387	15,017	15,826	16,843	15,962	15,803	14,344	12,758	14,291	12,461	12,021	14,904	16,385	16,406

今期もEA21の肝である温室効果ガス排出量が最小を記録しました。

理由としてはアスパックの自社生産を2024年3月に終了したことによりA重油使用量が0Lであったことが大きな要因です。しかしながら購入電力は過去最高を記録しております。
新工場では、低圧電力から高圧電力へシフトした事と空調設備の関係が今後使用量にどのような影響をもたらすか経過観測したいと思います。
今後の運用方法を模索して使用量削減を目指して欲しいと思います。太陽光発電の稼働が待ち遠しいです。
産業廃棄物は、工場の努力により端材リサイクル率の大幅UPが功を奏し削減の一途をたどっています。
軽油＆ガソリンは少しずつ増えつつあります。
工場に電気自動車用の充電設備を導入し軽自動車のガソリン車3台中1台を電気自動車にチャレンジする予定です。（時期は未定）

9. 環境上の緊急時対応訓練

- 実施日：2025年3月7日(金)
- 講師：CSK総合防災(株)
- 参加者：本社従業員11名 工場従業員12名
- 欠席者：本社従業員3名 工場従業員2名
- 課題点とその対策
〈課題〉消化班も一緒に避難してしまい、初期消火で消せる可能性があるにも関わらず燃える一方になってしまう。
〈対策〉①警報機により出火場所を確認し、消化班が消化器を持って出火場所に行き初期消火できる場合は消火活動。
②できない場合は避難。(工場では放送で出火場所を消化班に伝えたい為、マイクが必要)
来年度はこの流れを確立し訓練を行いたい。 ※実際に水の消火器を用意していただき、消火訓練を行うよう検討する。
- 欠席者への対応：後日訓練手順の説明を実施しました。



〈本社〉消火器の取り扱い説明の様子



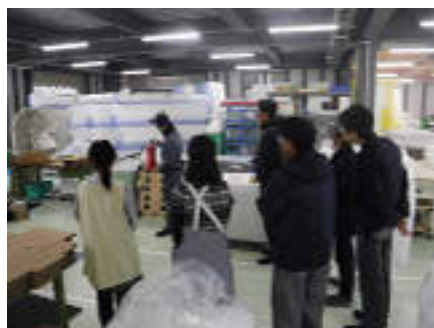
〈本社〉警報機の説明の様子



〈本社〉点呼の様子



〈工場〉消火器の取り扱い説明の様子



〈工場〉警報機の説明の様子



〈工場〉点呼の様子

10. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

環境関連法規制等取りまとめ表（遵守評価記録）

取りまとめ表の更新：毎年定期的な遵守評価を実施する際に制定、改正の確認を行い変更があれば更新する
取りまとめ表更新日：2024年5月14日 遵守評価日：2024年5月16日 遵守評価の時期：代表者による見直しの前

											承認	作成
とりまとめ表												
遵守評価記録												
法規則等の 名称	該当する要求事項（対応すべき事項）	条項（法律、規則、施工令）	関連条例等による規則	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格				担当 部署	順守評価	
						許可	届出 報告	資格	届出先		証拠	判定
廃棄物 処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	法2条3項、令4条4項		一般廃棄物（紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど）	・1回/年					総務	許可証 フロンティアスピリット R11.12.25しんえいR7.6.29	○
	・委託基準：産業廃棄物運搬・処理業者の許可の確認、契約	法12条の4		産業廃棄物 （金属類・廃プラ類・廃ガラス・廃油・木製パレット）	・契約書/許可証 につき1回/年					総務	契約書・許可証 フロンティアスピリットR11.12.25 (株)エコネルR11.6.30	○
	・保管基準 掲示板：60cm×60cm以上表示 飛散・浸透防止 衛生管理	法12条2項 則8条										
	・マニフェスト交付 B2・D票90日、E票180日以内に 送付されない場合は30日以内の知事への 報告	法12条の3、法12条の5、 則8条の20、則8条の26～29、			・マニフェスト新規 交付時又は月末		○		知事	総務	マニフェスト	○
	・A、B2、D、E票の保管、(5年間)											
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の 提出	法12条の3第6項、則8条の27			・6月末まで				知事		電子マニフェストに 移行の為不要 通知書	○
	・処理業者から処理困難の通知を受けた 場合、30日以内に知事に「措置内容等 報告書」による報告	法12条の3第8項					○		知事			
	・処理の状況について確認の努力義務	法12条第7項										
	・水銀使用製品産業廃棄物			蛍光管								
	・自社による運搬時の表示、書類携行	則7条の2の2										
水質汚濁防止法	・油及び有害物質の流出事故時の 措置と届出	法14条2項		重油タンク 灯油タンク			○事故時		知事		事故（有（無）	
フロン排出抑制法	・フロン類の登録充填回収業者による 適切な引き渡し	法41条		業務用空調機	廃棄時 修理時					総務	委託確認書 引取証明書	
	・環境影響の少ない指定製品の 使用に努める	法5条										
	・フロン類回収時の委託確認書交付と 引取証明書の保存（3年間）	法43条										
	・引取証明書が30日以内に送付されない 場合の知事への報告						○		知事			
消防法 ・松本市広域連合 火災予防条例	対象：第1種特定機器 ・簡易点検（すべて 1回/3ヶ月以上） ・点検記録の保存（廃棄まで）	法16条		コウバ5.7kw カutting マシン 0.9kw/2.6kw 工場長室1.8kw 貼り場1.6kw 2階事務所0.65kw 事務所(東) 1.8kw 事務所(西) 1.8kw 食堂1.8kw 会議室1.6kw						総務製造	点検記録	○
	指定可燃物の扱い	法9条の4 条例30条～34条の3.51条	松本市広域連合火災 予防条例	合成樹脂類 発泡させた物 20m以上			○		消防署	製造	資格の有無 現場観察	○
グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める	法5条		購入品・調達品 購入先・外注先								

保管：環境事務局 遵守評価の欄：確認した記録など記入 判定欄：○×（×の場合は問題点は正／予防処置票により解決を図る）
伝達：関連部署

11. 活動の見直し

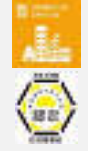
目標	SDGs 17の目標	内容	目標	実績	単位	コメント	評価
廃棄物排出量の削減及び3R		産業廃棄物排出量	10.9	7.0	kg	達成◎ 排出量も（▲5,000kg）と大幅に少なくなった。	○
		減容率	44.4	64.82	Kg	達成◎	○
		流出不良品件数	7	11	件	未達	×
		コピー用紙使用量 事務所 工場	11.8 4.8	14 5	枚	未達（事務所 +1,022枚） 未達（工場 ▲456枚）	×
二酸化炭素排出量の削減		二酸化炭素排出量	99.6	113	kg-CO2	未達 しかしながら、過去最小量を記録（+2,946kg-CO2）	△
		電気使用量	57.36	65.94	kWh	未達	×
		灯油使用量	1.32	0.89	L	達成◎（▲610L）	○
		軽油使用量	14.88	16.41	L	未達（+26L） 2025年1月に工場トラックをリニューアルした効果に期待したい。	×
		ガソリン使用量	11.76	14.99	L	未達（+1,997L） 今後、工場に充電設備を導入し、軽自動車（ハイゼット）3台を電気自動車へのシフトにチャレンジしたい。（ガソリンに対しては抜本的な対策が必用）	×
水使用量の削減		上下水道使用量	269	352	m ³	未達（+83m ³ ） 冬場、本社室外の蛇口が開いていたの気づかず、春雪解け後水がで続けてしまった。 完全なるヒューマンエラー。	×
化学物質の管理		・化学物質管理規定に基づき管理できた。					○
法令等の遵守		・法令の調査、リスト作成および関係法令の周知及び順法の徹底					○
		・緊急時の訓練を年1回実施した。					○
		・Ni Collaboによる安否確認を開始。最大震度5以上で全社員に自動配信。能登半島地震での安否確認ができた。					○
環境教育の推進		・事務所、工場共に周辺のゴミ拾い、社内草かきを4回実施することが出来た。 環境への意識向上を試みた。継続性が必要だと感じる。					○
		・月末最終日、EA21全体清掃を実施。					○
		・EA21及びSDGsにおけるこだわりを仕事、プライベートと全社員考えて頂き、EA21環境経営目標と共にカードとして一人一人に配布し意識向上を図った。					○
		・セールスドライバー運行前点検実施					○
		・EA21カイゼン広場 年間1回6月の納会で表彰（本社1人・工場1人）他人ごとではなく自分ごとへと意識改革を図った。					○
環境負荷の少ない商品の開発		・今期も工場間の通い箱も何件か受注できた。今後も継続的に提案を行う。					○
		・ウエスの原料不足は解消し、安定して製造・供給できている。					○

12. 環境経営目標及び環境経営活動計画（2025.7～2026.6）

作成責任者：三澤 作成日2024年7月1日

赤：環境目標（数値等） 青：今期開始の環境目標及び環境活動計画

目標	SDGs 17の目標	短期目標及び環境経営活動計画（2025年7月1日～2026年6月30日）	中期目標及び環境経営活動計画（2025年7月1日～2028年6月30日）
廃棄物排出量の削減及び3R		・産業廃棄物排出量を新基準値原単位70％削減（6,800kg） 原単位目標（17.8） 新基準年値（16,958kg） 新基準年値原単位（20.7）	・2030年：産業廃棄物排出量を新基準値原単位75％削減
		・減容率は昨年同様の算定方法 減容率新基準値比143％UP 目標65％ 新基準年値（14,183kg） 新基準年値原単位（45.5％）	・減容率基準原単位比150％UP
		・流失不良品数は11件であった。今期は30％削減（7件）を目指す。	・流失不良品数を限りなく0件に近づける。
		・メフやその他加工品端材はフロンティア・スピリット E・P・S様に産業廃棄物として処する。 フロンティア・スピリット E・P・S様よりRPF（固形燃料）として処理される。	・引き続きお願いする。
		・減容チップの購入先が2社に増えた。リサイクルに廻せる商品を再度見極める。	
		・カタログ、雑誌、新聞、段ボール、シュレッター屑等はヤマカ資源回収様に引き取って頂く。	・紙類のリサイクル率を上げ可燃物量の削減を実現する。
		・請求書の電子化 現在開設311社 未開設37社 今期目標開設+39社（350社）	・得意先様全社請求書の電子化
		・納品書の電子化も開始。納品書を郵送している得意先へ電子化をお願いしていく。	
		・コピー用紙 事務所：新基準原単位比46％削減 13,000枚 工場：2018～2021年平均原単位比47％削減 5,400枚 新基準年値（事務所 28,070枚） （工場 11,442枚）	・コピー用紙新基準原単位50％削減
		・本社複合機カセット変更 カセット1：裏面印刷用紙 カセット2：白紙 →B4廃止	
二酸化炭素排出量の削減		・二酸化炭素排出量を新基準原単位比54％削減（110,000Kg-CO2）目標原単位100 新基準年度原単位（219.4）	・2030年：二酸化炭素排出量を新基準原単位比60％削減
		・エアコンの設定温度は、室温が夏27℃、冬23℃になるよう設定する。	・引き続きお願いする。
		・ストーブは基本温度は23℃に設定。（こまめな温度調整をお願いする）	・引き続きお願いする。
		・昼食時の消灯。	・引き続きお願いする。
		・使用していない場所の電気、エアコンを消す。	・引き続きお願いする。
		・使用していない機械の電源を切る。	・引き続きお願いする。
		・前年燃費に対し3％UPを目標とする。（各車両ごと）	・2009年平均燃費に対し5％UPを目標とする。次期車両の選定。（各車両ごと）
		・営業、セールスドライバーの重複するエリアの特定。テレマテックスの利用 テレマテックスを導入し、急ハンドル、急加速、急減速など「急」を無くすことにより 安全運転＆エコドライブの実現 営業エリアと配送エリアの重複を回避し燃料と時間のロスを減らす。	・アイドリングストップ、効率の良い運送経路の実現。（エコドライブの実施） ・エコカーへの乗り換え推進。
		・社内に拘らず、社外に対してもクールビズ、ウォームビズの推奨をお願いする。	・引き続きお願いする。
		・社外に対しCO2削減をお願いする為、弊社敷地内でのアイドリング禁止をお願いする。	・引き続きお願いする。
		・工場総労働時間2019～2021年度の原単位平均値→2.0 -3％目標を目指す。（目標原単位1.94）	・工場総労働時間の削減
		・労働生産性 2019～2021年度平均比（原単位475）で30％UPを目指す。（目標原単位617）	・労働生産性 2019～2021年度平均比で40％UPを目指す。
		・事務所倉庫の整理整頓（年末の大掃除に不要な商品廃棄によりスペース確保後、商品置き場の最適化）	・事務所倉庫の更なる整理
		・松本市花いっぱい運動への寄付によりCO2削減を外部組織との協働実施。	・引き続き参画。

水使用量の削減		・節水の継続的取組み。(269㎡) (増加傾向がある為、蛇口の閉め忘れ等十分注意する)	・節水の継続的取組み。(269㎡)
化学物質の管理		・化学物質を適正に管理する。(特にRoHS2)	・化学物質を適正に管理する。
法令等の遵守		・環境法令の調査、リスト作成および関係法令の周知。(環境基本法～) ・緊急時の訓練年一回(灯油・重油流出時の訓練も行う) ・NI Collabo 360による安否確認開始。最大震度 5以上で全社員に配信。 ・2020年3月16日 経済産業省より連携事業継続力強化計画認定された。自社のBCPの整備を強化。 ・フロン排出抑制法対策。(エアコンの簡易点検実施)	・法令の調査、リスト作成および関係法令の周知及び順法の徹底。 ・緊急時の訓練を年1回実施する。 ・事業継続計画(BCP)の更なる整備
環境教育の推進		・SDGs(持続可能な開発目標)への理解を深める。 ・自分にとってのSDGs(会社・プライベート)社員全員に今期始めに決めて頂き、期の終わりにフィードバックして公表する。 ・EA21カイゼンを年一回の報奨制にする。(優秀賞は、事務所・工場 各1名とする。) ・本社は月末最終週に月一回の全体清掃の時間を設ける。 ・ペットボトルキャップ回収開始。世界中の子どもたちにワクチンを届ける支援のため。(本社のみ実施) ・工場は毎日決まった時間に清掃。 ・工場は月末最終日に現場ごとの会議や活動の場として、テーマの選定や実際に改善や普段できないことをみんなで行う。 ・セールスドライバー運行前点検の実施。 ・セールスドライバーへ名入り夏服を支給する。(ミカサ社員としての自覚をもってお客様への対応を心がける) ・本社、来客以外のスリッパ廃止。自前のスリッパ持参により整理整頓を促す。 ・周辺地域のゴミ拾いを実施し、環境美化を図るとともに、社員の意識向上を目指す。(毎土曜出勤日15分間) ・chemSHERPA(製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム)の理解を深める。	・社員の意識を高め、無理・無駄をなくした環境経営を確立する。 ・5S3定の徹底。 ・chemSHERPA(製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム)講習会参加
環境負荷の少ない商品の購入、開発		・3R(リデュース・リサイクル・リユース)を考慮した製品の設計・提案 ・環境負荷の少ない商品の積極的な販売かつ切替 ・商品開発をすすめ、「通い箱」などを提案・普及に努める。 ・弊社で生産・調達・販売しているウエスはSDGsの5項目に貢献している。オリジナルウエスの更なる拡販  ・グリーン購入、省エネ設備導入の推進。	・3R(リデュース・リサイクル・リユース)を考慮した製品の設計・提案 ・商品開発をすすめ、「通い箱」などを提案・普及に努める。 ・オリジナルウエスの販売目標 2019年度：7.0t → 2030年度：14t ・リサイクルマークを付ける設計を心がける。 ・自然素材の包装材の開発。

13. 代表者による全体の評価と見直し

2025年2月に念願の新工場が完成しました。

新工場の建替えは弊社の長年の念願でもあり、創立70周年を迎えたこのタイミングでの完成は心より喜ばしい事と思っております。

新工場は太陽光発電設備を設置し、また耐震強度もかなりアップしており、水害対策のため床高を地上から90cmの高さにしております。

太陽光発電によるエコエネルギーの活用、そしてBCP対策を兼ね備えた自慢の工場です。

工場のリニューアルにより作業動線のカイゼン等で労働生産性も大幅に向上しました。

何よりも従業員のモチベーションアップに繋がり、Well-beingの観点からも工場の建替えの効果を実感しております。

また、テレビ番組にも取材をしていただき、お客様への宣伝効果はもちろん、新入社員の採用活動にも大きく貢献してくれる弊社の新たなシンボルとなっております。この新工場を活用し更なる業績アップを目指していきたいと思っております。

材料端材のリサイクル率も大幅に向上し、産業廃棄物処理費とリサイクル端材の売却費が概ね同額となり、差し引くと産業廃棄物処理費がほぼなくなるところまでカイゼンされました。

2024年度は二酸化炭素排出量も過去最低量を記録することが出来ました。

空調設備も整備され、冬季のストーブ使用が不要となり灯油の使用料も大きく減らせる見込みです。

これから電気自動車の充電設備の設置も検討しており二酸化炭素の排出量を更に減らしていく計画です。

2025年度はエコアクション21を取得して20年目の節目の年度となります。

今まで20年間の活動の成果を省みて、引き続き社員全員協力して環境保全活動に取り組んでいきたいと思っております。



株式会社ミカサ
代表取締役社長 三澤 敏宏



最後までご覧いただきありがとうございました。

地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、循環型社会実現のため、
資源の有効活用と最適商材の提案に取り組むことで、高い品質と顧客満足の向上を図り、
持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。



TEL : 0263-25-1500 FAX : 0263-27-3705
URL : <https://www.mikasa-nagano.co.jp>